

ソーシャルイベント研究会レポート（7月14日）

■日 時 平成26年7月14日(月) 16:00~17:45

■会 場 日本イベント産業振興協会 会議室

■内 容

第一部：ネタメッセ（16:00~16:25）

プレゼンター ①大根田利夫（ダーツ）

②根本正（シグナス）

第二部：イベント見本市（16:25~17:25）

プレゼンター 石川文（電通テック）

「中国イベント ウラ・オモテ体験」

第三部：会員情報交換

■出席者 15名

座長：小林政則（イベント支援ネットワーク）

石川文（電通テック）、伊勢谷宣仁（昭和音楽大学）、内田なお子（昭栄プリント）

大根田利夫（ダーツ）、沖佳保里（コブタカンパニー）、加藤淑子（エンコーポレーション）

清水佳代子（シミズオクト）、下村卓爾（パソナ）、根本正（シグナス）、原正彦（JACE）

宮地克昌（東京観光専門学校）

[オブザーバー] 竹島靖

[事務局] 小西功一、菊地浩之



■第一部：ネタメッセ（イベントコンテンツや商品のプレゼン）

1) 大根田利夫（ダーツ）

ベストセラーになった「聴診器ブック」

取引先の出版社で発行した「聴診器ブック」を紹介し、付属品である聴診器をイベントに活用するアイデアを募集した。

自社のビジネスとしてスタートした、小ロットでも制作可能なオリジナルTシャツもアピール。



2) 根本正（シグナス）

女性アカペラ・XUXU と墨アート・朝偉の「クロッシング」

7月16日に日本橋公会堂で実施する「クロッシング」をPR。

女性アカペラグループ^{シヨシュ}XUXUと墨アーティスト^{ともひで}村山朝偉の異色のコラボレーションに、新鮮ニューウェーブゲスト「こけぴよ」も加わったステージの内容を紹介。



■第二部：イベント見本市（イベントに関する研究発表やケーススタディ、企画提案など）

「中国イベント ウラ・オモテ体験」

石川文（電通テック）

（概要）

2011 年 4 月から 2014 年 4 月までの 3 年間、電通テック北京広告有限公司に総経理代理として赴任。日中国民交流友好年「元気な日本展示会」などを手掛け、中国におけるビッグイベントの運営を体験。2012 年 9 月には尖閣諸島問題が生じ、大規模な反日デモが発生する激動の時期を体験した石川さんより、中国のイベント事情や事例の紹介を行った。



（内容）

○年々拡大を続ける中国の広告市場

中国における広告費は年々増加を続け、2011 年から 2012 年にかけては約 50%の伸びを示した。世界的には、第 1 位はアメリカだが、中国は日本を抜いて世界第 2 位の市場に成長している。広告出稿の多い業界は、1 位/化粧品、2 位/自動車、3 位/不動産、4 位/食品、5 位/サービス業。広告代理店はベスト 10 の約半分を外資系合併会社が占めている。

2012 年は、電通グループは 4 位だが営業利益ではトップになっている。博報堂グループは 17 位、アサツーディ・ケイグループも上位に入っている。電通テックは 67 位の売上高だった。

○中国における電通と電通テックの概要

電通は 1980 年に北京に事務所を設立。1994 年に北京電通が誕生して本格的な業務をスタート。2013 年 7 月にはグループ従事者が約 1800 人を超えている。拠点は北京の他に、上海、武漢、広州にある。

電通テック広告有限公司は北京本社と上海と東莞の支社がある。元々は国営の映画配給会社との合併会社としてスタートしたが、2011 年に電通テック 100%出資会社として再スタートした。従業員数は 61 名。事業内容はイベントプロモーション、セールスプロモーション、映像制作など。北京本社の日本人は私 1 人、上海 4 人、東莞 2 人。2013 年に手掛けたイベントは、デンソー上海ギャラリー、キャノン展、世界最大 UNIQLO 旗艦店（上海）オープニング、大連サマーダボス JAPAN NIGHT、上海モーターショー（トヨタブース）、上海環球金融中心クリスマスカメラキャンペーンなど。東莞では日本向けの販促物の制作を行っている。

○政局によって翻弄された中国での 3 年間

2011 年 3 月 11 日に東日本大震災が発生したが、同月末に中国に入り 4 月 1 日より赴任した。この頃の日本と中国は友好的な関係にあり、5 月 21 日には当時の温家宝首相が被災地である福島県を訪問。中国からの寄付金も少なくなかった。12 月には当時の野田総理も訪中し、2012 年 1 月より米倉弘昌氏を実行委員長とする「日中国民交流友好年」がスタート。日中間の様々なイベントが予定されていた。

しかし、9 月 11 日に日本が尖閣諸島を国有化したことで、中国全土で反日デモが頻繁に行われた。2013 年には PM2.5 による大気汚染が深刻化するという 3 年間だったが、特に印象に残っている 3 つのイベン

トを紹介したい。

●日中映像交流事業「日本映画、テレビ習慣」「日本アニメフェスティバル」開会式 レセプション

2011年6月8日（水）実施 中国国家博物館 ホール

当時は民主党政権だったが、アニメがテーマのため麻生太郎特使が訪中。日中両政府間の行事には様々な作法がありバランスが重視される。元総理である麻生特使の訪中が決ったことで、中国側にも様々な動きが見られ温家宝首相が出席することになった。現地の社員としての両国間のイベントは、私自身としては最初の経験だった。

●「日中国民交流友好年」開幕式 「元気な日本展示会」内覧会 レセプション

2012年2月16日（木）実施 北京市国貿センター

日本では上手が右、下手が左だが、日本がホスト役のため、日本側が右手側、中国側が左手側に3人ずつ並んだ。国と国との行事は必ず同じ人数に合せるのが決まり事になっている。内覧会では日本食の高級店の試食も取り入れて、非常に好評だった。特別大使のAKB48も来場し、握手会も無事に行った。4日間で約2万5000人が来場し成功に終わったイベントだった。

中国における大型イベントには、必ず政府関係の許可証が無いと実施できない。運営も細部まで公安当局の指示に従う。展示物なども中国側にとって問題が無いか、中国当局からチェックを受けてから掲出するため、最低1週間程度のチェック期間が必要。制作スケジュールも、中国側のチェックの時間を計算に入れないと現場に間に合わなくなる。

●日中国交正常化40周年記念 日中友好「スーパー夏祭り in 北京」

2012年9月1日～2日実施 朝陽公園 中心島劇場

このイベントは2012年の3月に開催が決定したが、4月16日に当時の石原都知事が尖閣諸島の3島を地権者から購入する方針を発表。元々中国では満州事変の発端となった柳条湖事件が起こった9月18日は、対日問題に敏感になる傾向がある。9月は避けるべきとの意見もあったが、9月1日2日の開催を決定した。以降、中国船の領海侵犯、香港の活動家や日本人活動家による尖閣諸島への上陸などが生じた。会場は、当初は朝陽公園の入口付近の花火広場を予定していたが、オープンなスペースでの開催は厳しいと再検討を余儀なくされた。同じ公園内でも警備がしやすい中心島劇場に変更し、開催の1ヵ月前にようやく政府関係の許可証が取れた。

9月1日、苦勞して何とか開催に漕ぎ着けて開会式を終えた頃、今度は豪雨警報のため北京における屋外イベントの全てに中止命令が。13時半頃中止して翌日の開催に備えた。翌朝は雨が残っていたものの、12時には再開して夏祭りを無事に行うことができた。日本の盆踊りやよさこいソーラン、中国の踊り、屋台の料理も好評で、夕焼けに染まったフィナーレのカチャーシー（沖縄舞踊）は、出演者と来場者が、日本人と中国人が約3000人、一緒に踊りまくって、大盛況の中での閉幕となった。



開催後、9月11日に日本が尖閣諸島を国有化したことで、中国各地で反日デモが発生。日本大使館は2

ヵ月以上にわたり外部から閉鎖され、日中友好のイベントや日系企業のイベントなど、数多くのイベントが中止・延期となった。長い間イベントに携わってきたが、改めてイベントは政治的な問題などの影響を受けやすいものだ実感した。

（最後に）

2014 年の北京のモーターショーの状況を紹介。日本、ヨーロッパ、アメリカの技術が入ったことで、展示は年々レベルアップしている。プロジェクションマッピングやインタラクティブ体験、QR コードの使用とソーシャルサイトとの結合などを取り入れるブースも増えていると、会場内の写真で事例を紹介した。



まとめ（小林座長）

今回、石川さんにプレゼンテーションをお願いした理由の一つは、「政治的な理由でイベントが中止」になり長期間影響を受けたことについて、もう一つは「中国という巨大なマーケットにおけるイベントの将来」という 2 つの視点で、情報や意見を交換・共有したいと考えた。

政治的な理由での中止は、1996 年に東京都が予定していた世界都市博覧会が開催の前年に中止となりイベント産業界が多大な被害を受けた。この世界都市博覧会の中止とイベント学会の誕生には深い関係がある。当時、イベント産業振興協会（JACE）の中にイベントを調査研究する部門があったが、世界都市博覧会の中止を受けて、あらためてイベントの効果や特性、経済波及効果などを学術的に研究する必要があるという機運が高まり、中止決定から 3 年後に「イベント学会」として J A C E から独立した形で設立されたと聞いている。

先日のワールドカップサッカーも反対デモが起きる中で開催し、結果としてブラジルは大敗。デモや略奪も発生し、2 年後のリオデジャネイロ五輪にも影響を及ぼしかねない。さらに、その煽りで 2020 年の東京オリンピック・パラリンピックにも何らかの影響が生じてくるかもしれない。イベントは、政治的な状況、市民感情、産業界の動向などに大きく影響されやすい、不安定な要素がとても強い事業だと言える。

2020 年までの 6 年間には想定外の状況が発生する可能性が多分にあり、イベントに携わる私たちは様々な対応策を準備しておく必要がある。想定外の事態に直面しても十分な対応ができるように石川さんの貴重な経験をソーシャルイベント研究会として共有してゆきたい。

■第三部：情報交換

清水佳代子（シミズオクト）

中国でのビジネスを頑張ってきたが、上海は上手くいっているが北京は厳しい状況。石川さんの話を参考にしたいと思い出席したが、石川さんのご苦勞を知り刺激を受けた。改めて頑張りたいと思う。

現地では 23 名の中で日本人が一人だけとのことだが、教育のコツがあれば教えていただきたい。

——石川

特にコツはないが、日々話しかけてコミュニケーションを取ることに尽きると思う。



宮地克昌（東京観光専門学校）

中国人も好きな台湾出身のテレサテンが、来年5月8日に没後20周年を迎える。その時に、日本から台湾に行くツアーを設定して欲しいと旅行会社に提案してきた。

もう一つ、個人的に購入したエプソンのモバイルビューアーをご紹介します。3D対応で動画も視聴できるので、例えば天守閣を失ってしまった観光地で天守閣が見られるなどの用途で、ツーリズムを活性化したいと考えている。興味のある人は声をかけていただきたい。



加藤淑子（エンコーポレーション）

2008年にスポーツ文化交流の事業で北京の日本大使館に行った。その前に、日本を北京語で紹介する雑誌の制作に携わったが、内容の検閲等に時間がかかり苦労が多かった。今日お話をうかがい、ご苦労の大きさを深く感じた。



下村卓爾（パソナ）

生のお話をうかがい非常に勉強になった。イベントは政局に左右されやすい一面も分かったが、スーパー夏祭りは中国側の関係者にも何とか開催したいという熱意を感じた。



★連絡事項（小林座長）

先日、ネタメッセと同じように人の情報をWebサイトにアップする「ヒトメッセ」を始めたいとご提案したが、個人情報をごどこまで掲載すべきかなど、事務局と詳細を相談して改めてお知らせする。

「イベント見本市」や「ネタメッセ」のプレゼンを希望者はぜひ申し出ていただきたい。

以上

ネットワークパーティ

18:00～ 希望者のみ半蔵門の「さくら水産」にて実施。



★次回、8月のソーシャルイベント研究会

8月23日（土）「まち歩きイベント研究会」と共同で開催する予定